宇都宮市立宝木小学校第5学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「1か月に何冊くらい本を読むか」の設問では、「11冊以上」と答えた児童の割合が一番多く、県と比べて12.5ポイント、市と比べても9.5ポイント上回っている。日々の読書に関する推進活動の良さにより定着していることがうかがえる。

○「勉強していても楽しい、楽しいと思うことがある」「不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」「難しい問題に出あうとやる気がでる」「本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている」等、学習への関心・意欲に関する設問に対して、「はい・どちらかと言えばはい」と答えた児童の割合は、県や市の平均と比べて、どれも4ポイントから10ポイント高い。今後も、学習への関心・意欲を高められるよう、教材や指導方法を工夫していく。

○授業に関する設問は、すべて県の平均、市の平均を上回っている。特に、「集中して受けている」「クラスは発言しやすい」「先生は学習のことについて褒めてくれる」という設問に対しては、「はい」と答えた児童の割合は、どれも10ポイント以上高く、良好な環境で充実した学習活動を行っていることがうかがわれる。

○「近所の人に会ったときは挨拶をしている」という設問に対しては、県や市の平均と比べて10ポイント以上高い。日頃からの学校や家庭での指導が実を結んでいる形となっており、今後も引き続き指導していく。

○「自分の行動や発言に自信をもっている」という設問に対しては、「はい」と答えた児童の割合が、県平均よりも12.0ポイント、市平均よりも10.6ポイント高い。自己肯定感が高く、満足感が得られていると思われる。加えて、クラス全体の雰囲気の良いことや児童一人一人に応じた個の指導の充実が図られていると考える。引き続き、継続を図っていく。

○「家の人と将来のことについて話すことがある」という設問に対しては、「はい」と答えた児童の割合が、県や市の平均と比べて11ポイント以上高い。家族とコミュニケーションを図り、夢や将来のことが話題となっていることが分かる。良好な家族関係が築けていることがうかがえる。

- 「家で学校の授業の予習や復習をしているか」の設問に対しては、「はい」と答えた児童の割合が県や市の平均と比べて1～13ポイント下回っている。学校と家庭が協力し、日頃から声掛けをしたりきめ細かい具体策を提示したりしながら、家庭学習の定着を図る必要がある。
- 「普段1日あたりどれくらいゲームをするか」の設問に対して、県や市の平均は「1時間より少ない」が一番多く、約30%であるが、本校児童は「1時間以上から2時間以内」が一番多く、26.9%である。家庭における生活習慣としてゲームに依存している割合が高いため、家庭において時間などの約束事を決めるとともに、学校としても好ましい生活習慣等について啓発していく必要がある。
- 「携帯電話・スマートフォンを持っているか」という設問に対して、県平均10.2ポイント、市平均よりも3.4ポイント高く、38.9%である。「携帯電話・スマートフォンで電話やメールをしたり、インターネットのサイトを見ているか」という設問に対して、県や市の平均は「全くしない」が一番多いが、本校児童は「30分より少ない」が一番多く、45.2%である。家庭に対して、時間や使い方などの約束事やルールを決めるよう啓発するとともに、学校でも、携帯電話やスマートフォン、インターネットの功罪について引き続き指導していく。
- 「見てはいけないサイトにつながらないようになっていますか」という設問に対して、県平均よりも2.0ポイント、市平均よりも5.6ポイント低く、61.9%となっている。今後もフィルタリングの重要性を指導していくとともに、各家庭に対してもフィルタリングの啓発を行っていく。
- 「自分はクラスの人の役に立っていると思う」という設問に対して、県や市のピークは「どちらかと言えばはい」のところであるが、本校児童のピークは「どちらかと言えばいいえ」の39.8%である。ここでは、やや自己肯定感の低さが表れているようである。クラスの中で、機会あるごとに一人一人がクラスの一員であり、互いに助け合ってクラスが成立していることを伝えていく。
- 各教科の中で、「図画工作や総合的な学習については好きである」という設問に対して、本校児童の割合が県や市の平均と比べて11～16ポイントも下回っている。児童の興味・関心を高められるよう、教材の工夫や製作の技能、調べ方やまとめ方の例示などの取り組みを行っていきたい。